

第5号議案 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

今後農業者の減少が更に進み、現在多面的機能支払交付金を利用している水路や農道の草刈り作業などにも労力不足などの問題が発生することが懸念されます。そのための対策などを年1回以上話し合うことが、当交付金を受給するために必須の活動となっています。

幸野溝地区地域資源保全隊の現状と問題点

昨今の、地域の過疎化や農家の減少に伴い、担い手農家の耕作面積が増え、水路や農道の草刈りや溝さらいに手が回らなくなる恐れがある。

対策

- ・ 地域住民の非農家の方にも、共同施設(水路や農道)の草刈りや溝さらい作業に参加してもらう。

具体的な活動

- ・ 以前より、当交付金を活用し、年1回以上、各地区の地域住民に、農道の草刈り作業等を実施してもらっている。昔からの伝統行事である堀上溝清掃作業が途絶えていたが、当事業を活用し平成29年度から復活させた。それでもまだまだ、非農家の方の意識は薄く、呼び掛けても参加していただけない方も多いため、もっと非農家の方の意識を高めることが課題である。

みんなで守ろう
農村環境

